

食の安全、みんなで学ぼう！

# トラクターが戦車に、化学肥料が火薬に、毒ガスが農薬になった

(戦争と農業)の帶より



## 農薬はいかに生まれ、今に至ったか…私たちの暮らし方、生き方

農作業を効率的にしたい。その思いが20世紀の農業技術を飛躍的に発展させた。同時に、その技術が戦争のあり方も変えた。トラクターは戦車に、化学肥料は火薬に転用された。逆に戦争で使用された毒ガスは、平和利用の名のもと、農薬として使用されている。

本来、人間の食を豊かにするテクノロジーの発展が、現実には人々の争いを加速させ、飽食と飢餓が共存する世界をつくってしまった。わたしたちは、気付かないうちにこのシステムに組み込まれ、平氣で加担している。私たちは、今、何をしなければいけないのだろうか…。

日時 2019年2月16日(土)13時30分開始 (13時開場)

場所 コーフ下鴨2階集会室 (左京区下鴨高木町37 地下鉄北大路から市バス 北8、  
204、206高木町下車すぐ。出町柳から京都バス、32、34、35、37高木町下車すぐ)

講師 藤原辰史さん(京都大学人文科学研究所准教授/農業史・現代史)

参加費 無料



講師紹介 藤原辰史



1976年北海道に生まれ、島根で育つ。99年京都大学総合人間学部卒業。2002年京都大学人間・環境学研究科中途退学。京都大学人文科学研究所助手、東京大学農学生命科学研究科講師を経て、13年4月より、京都大学人文科学研究所准教授。専攻・農業史・現代史。主な著作に、「ナチスのキッチン食べことの環境史」(共和国、河合隼雄学芸賞受賞)、「カフラの冬」(人文書籍)、「稻の大東亜共栄圏」(吉川弘文館)、「戦争と農業」(集英社インターナショナル新書)、「トラクターの世界史」(中公新書)、「ナチス・ドイツの有機農業」(柏書房、日本ドイツ学会奨励賞)「給食の歴史」(岩波新書)など。2015年に結成された「自由と平和のための京大有志の会」発起人「戦争は、防衛を名目に始まる/戦争は、兵器産業に富をもたらす/戦争は、すぐに制御が効かなくなる/戦争は始めるよりも終えるほうが難しい。/戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。/戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。/精神は、操作の対象物ではない。/生命は、誰かの持ち駒ではない。/海は、基地に押しつぶされてはならない。/空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。/血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい/学問は、戦争の武器ではない。/学問は、商売の道具ではない。/学問は、権力の下僕ではない。/生きる場所を考える自由を守り、創るために、私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。(声明)

主催 京都生協テーマコミュニティ 食の安全は生協運動の1丁目1番地

問い合わせ先 090-2859-0652 田中

日本弁護士会は2017年12月、「ネオニコチノイド系農薬の使用禁止に関する意見書」を出した。「予防原則に基づき保留すべきである。..農薬は、開放的に意図的に散布されることから、その多用は、農業者の健康をむしばみ、農産物の安全性を損ね、環境問題を引き起こしてきた…予防原則とは、人の健康や自然環境に対して悪影響を及ぼす可能性が懸念される物質や活動について、たとえその悪影響に対する科学的な解明が不十分であっても、…十分な防護策を実施すべきである…ヒトの健康—特に胎児・子どもの発達への影響が懸念されている」EU諸国、アジア、北米、南米でも規制に乗り出している..